

高松塚古墳壁画保存管理公開活用施設（新施設）について

1. 高松塚古墳壁画・石材の保存修理

高松塚古墳壁画について

- 昭和47年に我が国で初めて発見された極彩色の壁画
令和4年3月21日に発見50年を迎えた
- ・ 青龍、白虎、玄武の三神と星宿図、日月像、人物群像（女子群像、男子群像）からなる
- ・ 昭和49年 壁画を国宝、出土品を重文指定
- ・ カビ等による壁画の劣化進行のため、古墳から石室を取り出して修理（令和2年3月終了）

- 壁画・石材の保存活用のための調査研究を実施
- 壁画は仮設修理施設で定期的（年4回）に公開



壁画修理作業の様子



壁画の材料分析作業の様子



壁画の一般公開

2. 高松塚古墳壁画保存管理公開活用施設（新施設）の検討

「古墳壁画の保存と活用に関する検討会」（座長：和田晴吾・兵庫県立博物館長）において、新施設の在り方を検討中。

令和4年3月に新施設の基本構想を策定した。

新施設の基本構想

(1) 目的

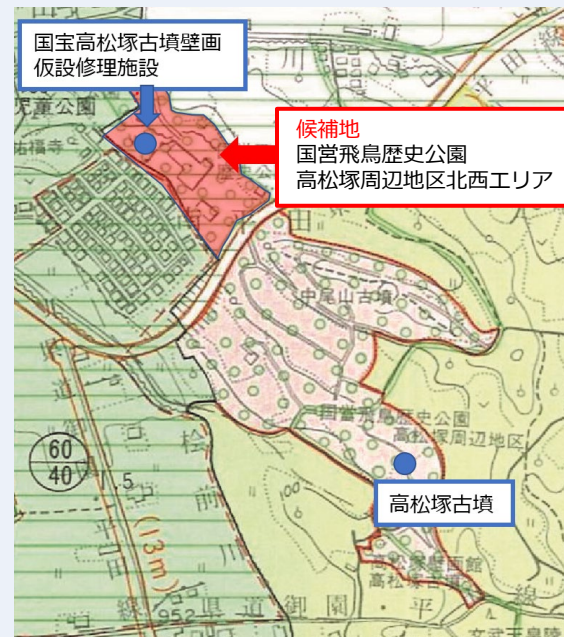
- ・ 古墳壁画と石室石材を保存・修理・メンテナンスし、将来に継承
- ・ 飛鳥地域の歴史や風土、特別史跡の価値、国際交流の歴史などを踏まえつつ、古墳壁画・石室石材の価値や魅力を調査研究、発信
- ・ 飛鳥地域の導入拠点として、地域を巡るための必要な情報を提供
- ・ 古墳壁画・石室石材を墳丘に戻すことを目指した調査研究

(2) 施設等の基本的な考え方

- ・ 新施設の設置場所を、国営飛鳥歴史公園高松塚周辺地区北西エリアとして検討・調整することが望ましい
- ・ 展示等機能の実現のため近隣施設との連携なども検討し、効率的な整備を行う
- ・ 最適な保存環境、見やすい観覧環境を検討する

(3) 今後の進め方

- ・ 令和11年度までの供用開始を目指して調査研究を進め、更なる具体化を図る



新施設設置場所候補地

3. 新施設における基本的な事業活動について（基本構想）

基本的な事業活動

① 保存・修理・メンテナンス

- ・古墳壁画・石室石材を展示しながら安定した環境で保存する
- ・高松塚古墳に関連する資料を保管する

② 展示（古墳壁画・石室石材保存管理室、常設展示、企画展示、ガイダンス展示）

- ・保存の歴史
- ・古墳及び壁画の魅力と学術的な重要性
- ・調査研究成果
- ・飛鳥地域など国内外の古墳や古墳壁画
- ・飛鳥地域の現在の全体像と歴史を伝え、来館者による回遊を促進する

③ 教育・普及

- ・教育旅行への対応
- ・体験プログラム、講座、講演会の開催

④ 調査・研究

- ・保存と展示活用のための調査・研究

⑤ 人材育成

- ・学生や若手研究者による研究支援
- ・子ども向けの学習・体験プログラム
- ・ボランティアガイド育成プログラムに対して情報の提供

⑥ 国内外とのネットワーク

⑦ 情報発信

